

第13回 湖西市子ども・子育て会議 会議録

- 1 とき 令和元年7月30日(火) 午後2時から午後3時15分まで
- 2 ところ 湖西市健康福祉センター3階 研修室
- 3 出席者 委員：柴田会長、鈴木副会長
飯田正委員、飯田眞委員、神谷委員、近藤委員、佐藤委員、
白井委員、菅沼委員、高橋委員、西山委員、彦坂委員
(五十音順)
(欠席：倉田委員、豊田委員)
教育委員会幼児教育課 課長 小野田 剛士
係長 外山 典靖
- 事務局：健康福祉部子育て支援課 課長 尾崎 誠
課長代理 豊田 雄一
主査 古畑 孝祐

4 開 会

(事務局)

令和元年度第1回湖西市子ども・子育て会議を開会します。

さて、本年度から新たに委員となられた方もいますので、まず自己紹介をお願いします。

※委員の自己紹介

(事務局)

ありがとうございました。

会議の開催にあたり、子育て支援課長の尾崎から挨拶申し上げます。

(子育て支援課長)

改めまして、本日はお忙しい中、子ども子育て会議にご出席いただきありがとうございます。梅雨も明け、本格的な夏の到来です。新聞・マスコミによりますと、昨日は令和最初の最高気温ということで東京では121人、静岡県では19人が熱中症で搬送されたそうです。冷房の効いた部屋から一歩外へ出れば、汗が噴き出てくるような状況です。熱中症対策として水分をしっかりと取り、体調管理にはお年寄りや子どもたちをはじめ、私たちも気を付けたいものであります。

さて、皆様には、昨年10月に第2期湖西市子ども・子育て支援計画の策定に取り掛かるためのニーズ調査の内容についてご審議いただきました。そして、12月に調査を行い、3月に集計分析結果をご報告させていただきました。

本年度は、計画書及び概要書の作成に取り掛かりたく、引き続き、ご理解ご協力を賜り、完成を目指し進めていきたいと考えております。

今一度この策定業務であります。国の示す「基本方針」や「事業量算出のための作業の手引き」等に基づきまして、県指導のもと調査を通じて子育てに関する現状、ニーズを把握し、分析を行い、皆様のご意見を賜り作成していくものでございます。

それでは、本日も忌憚のないご意見をお願い申し上げ、ご挨拶に代えさせていただきます。よろしく申し上げます。

(事務局)

それでは、本日の会議は、湖西市子ども・子育て会議運営要領第4条に基づき公開で行います。

なお、傍聴される方が6名いますのでご報告します。傍聴される方は受付で確認いただいた会議運営要領に基づき注意事項を守って傍聴していただきますよう、ご協力をお願いします。

それでは、会長よりご挨拶いただき、ここからの議事進行をお願いしたいと思えます。会長をお願いします。

(柴田会長)

改めまして、アンケート調査の分析がまとまってきたということで、本日の会議になっております。ご説明がありましたように、国の算定方針が決まっておりますので、突拍子もなくいろいろなことが出来るわけではないかと思えますが、湖西市の実情・ニーズに合った計画が策定されることを望みたいと思えます。

では、本日の会議の成立についてご報告をさせていただきます。

全委員14名のうち12名の参加があり、過半数の出席を得ていますので、本会議条例第5条第2項により本会議が成立していることを報告させていただきます。

それでは、議事に移ります。

最初に議題1「副会長の選出について」です。

副会長は、会議条例第4条の規定に基づき、委員の互選によることとなっておりますが、いかがでしょうか。

(事務局)

ご意見が無いようですので、事務局から提案させていただきます。

前副会長でした湖西市保育士会長の後任であります、鈴木委員を推薦したいと思

ますが、いかがでしょうか。

(柴田会長)

事務局から副会長に鈴木委員との推薦がありました。ご意見はありますでしょうか。よろしければ、拍手をもって承認をお願いします。

ありがとうございました。

それでは、副会長には「会長が欠けたときは、その職務を代理する」こととなりますので、よろしくお願いします。

次に、議題2「第2期湖西市子ども・子育て支援事業計画素案（第1章～第3章）基本理念について」を議題とします。

それでは、事務局から説明をお願いします。

(子育て支援課)

令和2年度から令和6年度までの5年間の事業年度とします第2期湖西市子ども・子育て支援事業計画につきまして、素案を作成しました。本日は、その内容について委員の皆様にご説明し、現時点でのご意見を伺いたいと考えています。委員の皆様からいただくご意見や、今後行われます静岡県とのヒアリングの結果に基づきまして必要な検討や修正を行い、次回の会議で修正案を提示していく予定であります。

それでは、支援事業計画素案の第1章～第3章について、計画の基本理念や湖西市の子育てのビジョンについての検討も含めまして、ご説明します。

第1章は、子ども・子育て支援における全般的な動向などを記載しており、1～2ページは、計画策定の趣旨やこれまでの取組といった内容を記載しております。

3ページでは制度改正について、幼児教育・保育の無償化や放課後児童クラブの受け皿の拡大などの説明を記載しています。また、基本指針の改正につきましては、来月、内閣府から示される予定です。これにより、無償化に係る事項が追加されると聞いておりますので、今後必要な修正を行います。

5ページには、計画の期間や位置づけについて、記載しています。

続きまして「第2章 子ども・子育てを取り巻く現状」についてです。

7ページには、住民基本台帳を基にした年齢3区分別人口の推移を記載しており、15歳未満の年少人口の推移が分かるようになっています。

8ページには、0～5歳の就学前児童と6～11歳までの小学生児童の人口のこれまでの推移と今後の推計を上段に、下段には就学前児童の年齢別人口の推移と推計を記載しております。いずれも住民基本台帳を基にした実績値の推移や推計となっております。

9ページには、出生数・出生率の推移や合計特殊出生率を記載しています。このう

ち下段の合計特殊出生率につきましては、市町村別の数値が5年に1回公表されることで、前回は平成26年に公表されましたので、おそらく今年中には公表されると思われます。数値が出次第、修正します。

10～11ページには、子育て世帯やひとり親世帯の推移、女性の就業の状況について国の統計などにより記載しております。

続きまして、ページ番号が振られておりませんが、11ページの次、本日資料を追加で配布しました(5) 保育園・幼稚園・こども園の状況をご覧ください。平成26～30年度の利用実績の推移です。

①保育園・こども園につきましては、認可外保育園が認可保育園へ移行したこと、認定こども園が1園創設されたことなどにより、平成26～30年度にかけて、89人増加となっています。

②幼稚園・こども園につきましては、平成29～30年度にかけて増加があるものの、概ね減少傾向にありまして、平成26～30年度にかけましては、213人の減少となっています。

①の延長保育につきましては、概ね横ばい傾向にあり、平成26～30年度にかけ、11人の増加となっています。

②一時預かり事業につきましては、まず幼稚園の一時預かりは平成27年度から2園が新たに実施となったため計5園で行っており、平成28年度からは長期休園日の一時預かりも開始しており、平成26～30年度にかけては、6,182人の増加となっています。幼稚園以外の一時預かりは、保育園等に入園できなかった未就園児を預かる緊急一時預かりを新居幼稚園で開始したことや、平成30年度から1園が新たに開始したことから、平成26～30年度にかけては、2,222人の増加となっています。

③放課後児童健全育成事業につきましては、平成26～30年度にかけて、92人増加しています。

④地域子育て支援拠点事業につきましては、概ね横ばい傾向にあり、平成26～30年度にかけ、16,000人前後で推移しています。

⑤ファミリー・サポート・センター事業につきましては、平成26年度以降は概ね減少傾向にありましたが、平成29～30年度にかけましては、467人の増加となっています。

⑥妊婦健診事業につきましては、年々減少傾向にあり、平成26～30年度にかけまして、117人減少しています。

⑦乳児家庭全戸訪問事業につきましては、年々減少傾向にあり、平成26～30年度にかけましては、131人の減少となっています。

最近5年間の利用実績は、以上のとおりです。

続きまして、12ページ以降には、昨年12月に実施し、前回の会議におきまして結果をお伝えしましたアンケート調査の結果を記載しています。教育・保育事業などの利用希望のほか、24ページには放課後児童クラブに今後希望することを記載しております。

す。

25 ページには、育児休業を取得していない理由を記載しています。上の説明文の数値は誤りで、グラフの数値が正しいものですので、次回までに修正します。

28 ページには、子どもの居場所についての調査結果を掲載しております。子どものための無料の体験活動などが、高い利用希望となっております。

続きまして「第3章 計画の基本理念」についてです。

第3章では、計画の基本理念や目標などを掲げており、この部分が、支援事業計画の根幹、湖西市の子育てのビジョンであると考えています。第1期計画の策定時では、この部分の意見交換に余り時間が取れなかったと伺っております。今年3月に退任されました本会議の河田前副会長や、市議会におきましても、子育てに関わる第一線でご活躍の、また、子育て真っ最中の皆様で構成されるこの会議において、子どもや子育ての将来像などについて話し合っただけで欲しいとの要望も受けておりました。このため、今回子育てのビジョンについて意見交換をさせていただき、計画に反映させていきたいと考えております。

委員の皆様からは、短い時間であったにもかかわらず、事前にご意見をお寄せいただき、ありがとうございました。

せっかくの機会ですので、ここで、委員の皆様のご意見や素案に対しての感想、これだけは是非言っておきたい事柄など、お一人ずつご発言をいただきたいと思っております。

(柴田会長)

事務局から湖西市の子育てビジョンについて、改めて一言ずつということでしたので、どなたからかご発言をお願いします。今ここで改めて思いついたことや抽象的なことでも具体的なことでもいいと思っております。いかがでしょうか。

(西山委員)

1点目の「将来どんな子どもに育ててほしいか」というテーマの中で、「世界に羽ばたく子」というのに若干違和感がありました。

それから、下から4行目の「仲間を大切に出来る子」は、ビジョンに盛り込んでほしいと思っています。会社の中でも自分さえ良ければいいという人も中には出てきます。私は労働者福祉協議会代表で今日の会議に出席しておりますが、福祉というところで、社内でもボランティアやチャリティバザーを皆でやっていきたいと思います。この「仲間を大切に出来る子」というのは、私の中ではテーマだと思っています。

(神谷委員)

3つお願いします。今の「仲間を大切に出来る子」の関連で言いますと、外国人の子どもや親についての対応が一切載っていませんが、そういったことを触れる場面が

必要かと思えます。湖西市は人数が多いのでどういう風にしていくかというのと、この仲間というのも多様な仲間が出てくると思えます。そういった仲間の視点、言葉が通じなくても子どもたちは割とコミュニケーションが取れたりするので、遊びに関してもそうですが、そういったところで外国人の子どもや親の支援について入れていただきたいと思えます。

次に、3ページにあります放課後児童クラブの受け皿の拡大の下に書いてある文ですが、「女性の就業率の上昇等による」の後ろに「共働き家庭」とありますが、私もそうですが、シングルマザーもいますので、「共働き」というのは止めていただきたいです。「小1の壁」というのは皆さんが考えている「小1の壁」の意味合いと、本当の意味合いが結構ズレていると思えます。「小1の壁」というのは子どものことと捉えている方が沢山いると思えますが、実は親の働き方が変えられてしまうという社会的問題ですよ。ね。「小1の壁」と入れるならば「小1の壁」の説明書きが必要ですし、「小1の壁」と書かないのであればもう少し砕けた書き方をした方が分かりやすいかと思えます。親の働き方が保育園までは順調に働けるけれど、1年生になると早く帰ってくるので働き方を変えられてしまう、そんな親の困りごとと、子どもを預けるところがないという待機児童の問題が並列してあると思えます。

3つ目は、今日の追加資料の中で、乳幼児の全戸訪問事業の数字があったと思えます。131人減少していますと書くと131人しかやっていないのかと思えますが、年々率は上がっていますので、ここに出生数を合わせて入れていただくといいのではないのでしょうか。それまでは受けていない人が30人台だったのに対して去年は17人ですので、これはすごいことだと思います。受けていない方は外国の方で言葉が通じない方が多いのか、そういうことまで載せられないかもしれませんが、どういう人が受けられないのかを書いていただくと分かりやすいですし、地域の課題が浮き彫りになるかと思えます。以上です。

(菅沼委員)

事前に郵送された「子育てのビジョン(案)」のこの文章は湖西らしさが出ていていいなと思えました。そこから基本理念で「みんなで育む子どもと親の笑顔が輝くまち」と一気に一般的になってしまい、湖西らしさがなくなってしまうように思うので、もう少し湖西らしさやチャレンジ精神、多様性、特性を表しているような理念の方がいいのではと思えました。

(飯田正委員)

事前提出のアンケートにも書きましたが、どうしても休日になると市外に出てしまうことが多い。湖西で育ったので湖西でお金を使いたいのに、子どもに行きたいところを聞いても浜松や豊橋になってしまい、なかなか湖西市に貢献が出来ない現状があります。他の親と話してもそのような意見が出てしまいます。出来れば湖西市の中でそういった施設があれば望ましいですし、湖西市の中でも有効的に土地を使えてない

ような、調整区域でそのままの状態が続いているようなところに少しでも賑わいをもたらすことが出来れば、湖西市でお金を使っただけになるのではないかと思います。ぜひその辺りをご検討いただきたいと思います。

(佐藤委員)

湖西市で一番心配しているのが高齢化と人口減少で、そこが一番大きな課題だと思います。子どもたちが湖西市を好きになって、大きくなって市外で勉強したり働いても、やはりどこかで戻ってきて欲しいです。先ほどおっしゃった郷土愛や仲間と同じように、湖西市を好きになってもらうような子育てが出来るということが大切になってくると思います。

(高橋委員)

それに続いてですが、地域一体になって子育てをしていくということとはごもったもな事ですが、より具体的にどういう団体がお子さんにどういうふうに関わっていくのかというところを、今すぐには答えが出ないとは思いますが、今後、具体的にすることによってこの子育てに関わってくる人がどんどん増えていくことに繋がると思います。こういう会でアイデアを出していけばいいのではないかと思います。

(鈴木副会長)

皆様のご意見にかなりいいご意見が出されていると思います。今の子どもたちは経験が少ないので、経験をたくさん出来るような場所や環境を考えていかなければならないのではないかと。今ある資源をどのように活かしていくのかというところは、目標だけではなく具体的な行動として示していかなければ、なかなか先には進んでいけないと思います。

ここに親子の時間というのも非常に有効と書かれてありましたが、この親子の時間という言葉はとても素敵だなと思いました。湖西市は自然に恵まれているとどなたもおっしゃるように、湖西市の良さを子育てに育んでいけるような内容、そのためには人と人との繋がりが地域との繋がりになっていくのだと思います。

(彦坂委員)

その他の自由意見で出させていただきましたが、学童保育で子どもたちを見ていると社会性がとても大事だと思います。学校の現場で重要なことと地域で重要なことは違うと思いますが、社会性が育っていかないと長い人生を楽しく暮らしていくには繋がりが大事だと実感しております。体験不足についても体験する場がなかなか見つからず、体験をする時にいろんな年齢の方とも繋がることが出来ますし、親子でも繋がることが出来ます。学童保育としては社会性が大事であるという観点で、現在活動しているところです。

(飯田眞委員)

今の繋がりで、地域が一体となって行うような活動というのがだんだん減ってきていて、それが問題かと思えます。働き方などが関連しているかと思えますが、学校は土・日曜日が休みだけれど親は休みではないとか、役員をやりにくいということもあるのかもしれませんが、そこら辺が改善されていくといいかなと思えました。

(白井委員)

同じ様なことですけれども、郷土を愛してもらうためには具体的にどのようなことをすればいいのかを掘り下げたり、土・日曜日の空いている時間に仲間を作り、湖西を盛り上げていけるような子どもに育てていったらいいなと思えます。

待機児童がなくなるのはいいと思いますが、一番の問題は、待機児童をなくすために保育士が不足しているということです。保育士の質を上げないといけないと言いながら不足しているので、出来ればそういう体験を通して子どもっていいな、素敵だなと感じられるような体験。今、社会福祉協議会でちょこっとボランティアというのがありますが、結構人気があります。その中で保育士になる人がいるといいなと思えますし、保育士だけではなく子どもを育てることは素敵だと感じれば、結婚率も高くなると思えます。いろんな意味で郷土愛に慕っている子どもたちは、最終的にはここに帰ってきてそこで力が発揮できればいいなと思っております。子どもたちが増えていないというのは、子どもたちが好きで、子どもたちが楽しそうに遊んでいる姿が見えていないのではないかと。中学校も高校もそういう保育体験をする場面はありますが、年に1回ぐらいですので、ボランティアで土曜日に行ったりするなどいろんなところで体験が出来るといいのではないかと思えます。

現在は近くでやっていますが、公立、私立、保育園、幼稚園、こども園でも誰でもいいので、その場に来たら参加できるという「湖西あそび広場」というのを作って呼びかけていますが、なかなか輪が広がっていかないということが問題なのですが、集えるような環境があれば、そこで知り合い仲間を作ることも出来ると思えますので、湖西市独自のものが出来ればいいなと思っております。

(近藤委員)

現在、小学校に勤めておりますが、子どもたちが多様化してきたということは強く感じております。外国籍の子どもたちもいますし、資料にあった発達障害の問題もかなり小学校では大きくなっています。中には学校に来られない子どももいます。そんな中で最近あったことですが、学校の教室には入れないのですが、社会体育のところで体験が出来て、それがきっかけで人と繋がることが出来たとか、あとは水曜日に本校を会場として放課後子ども教室というのをやっていただいているのですが、そこなら来られるということで、そこに行くことで人との繋がりがあるということは、本当に有難いと感じております。やはり学校だけでは子どもを育てるには限界があるのではないかと思えますし、社会全体での子育てに関する支援や体験の場がどんどん充実

していくと、多様な子への対応がうまく出来ていくのではないかと感じております。

(柴田会長)

私も皆さんの意見を聞いていて言いたくなかったことが二・三ありまして、子育て支援の仕事に関わって保健所以来40年近くになりますが、私なりの行きついた結論は、『子育てに協力的な夫と妻のパートナーシップが上手く出来ていないと2人目は生まれない』という現象があります。これは数字で明らかになっていまして、週末の夫の育児家事の協力時間が1時間ぐらいだと、2人目が生まれるパーセンテージが30%台です。夫の育児家事の協力時間が6時間を超えると、83%ぐらいに上がります。ハッキリした数字が出ていまして、明らかに奥さんが1人でしんどい子育てをしていると、2人目は生まれないという現象をあちこちで見聞きします。生まれる前から親になる準備教育をして、夫も家事育児を行い育休も取るのだということを教育的にやっていかないと、生まれてから妻が大変な思いをしているところに夫がついていけないということが起こります。また、離婚率が一番高いのは、子どもが0～2歳の時です。育休がこの前の統計で6.1%を超えたのですが、その前までは0.3%ぐらいで非常に危惧されていまして、10%を超えると世の中が変わるのではないかと考えていまして、戦略的にやっていただきたいと思っています。長泉町が合計特殊出生率1.83で、裾野市と合わせて県内1位、湖西市は1.54です。長泉町が特殊なことをやっているかということ、それほど特殊なことをやっているわけではありません。イメージ戦略だと思います。長泉町で子育てをすると楽しいというイメージが定着し始めているので、どうせ子育てするなら三島ではなく長泉に引っ越しをする感じです。

私は、『湖西の育休取得率が県内1位』になるようにしたらどうかと思っています。育休の取得率を市町村ごとに今のところ出していませんが、いずれ統計として出てくると思います。育休を取りづらい理由として会社の理解や周りの雰囲気などありますが、湖西市に行くとなんか取っているということが広まれば、当然のように父親が育休を取るようになる。最初の3か月でも育休を取ってくれば、これほど奥さんにとって有り難いことはないのです、2人目を産めると思ってくれるようになると思います。育休そのものがまだあまり知られてなく、同時に2人合わせて1年ずつ取っても良いです。今の育休の取り方だと5日だけとか極端に少ない方が多いですが育休が取れなかったら時短でもいいと思います。時短で毎日定時に帰ってくる父親がいれば、それだけでも助かると思います。東の長泉町は合計特殊出生率が高いので、西の湖西市は育休取得率1位を推していただきたいです。そうすると雰囲気が変わると思います。

それから先ほど、保育士の給料の話が出ましたが、京都あたりで家賃の補助をしていたり自治体ごとに給料を上乗せしたりしているところもあります。それぐらいしないと集まらない時代になってきていますので、湖西市で働く保育士さんは、既定の給料プラス行政が2万円出してくれるとなると、こちらで働いてくれるのではないかと感じたりします。厳しい状況ではありますが、湖西市は面白いことをやっているとい

う特色が出ていいのではないかと思います。

それぞれのビジョンからご意見をお聴きしましたので、事務局で勘案し、基本理念その他に反映させていただきたいと思います。

(子育て支援課)

貴重なご意見、ありがとうございます。本日いただいた皆様からのご意見を参考・検討にさせていただき、次回の会議で、改めて湖西市の子育てのビジョンを提示したいと思います。

支援事業計画素案の第1章～第3章につきましては、以上です。

(柴田会長)

第1章～第3章について、何か質疑等ございましたらお願いします。

(神谷委員)

昔、湖西市には児童館があったと思いますが、子育て支援センターが出来てからは主に子育て支援センターに親子で行っているかと思います。子育て支援センターのイメージとして0～3歳の利用ということで定着していて、28ページにも載っていますが、児童館機能のような子どもたちが無料で食べられたり何かを体験できるという場がありません。それがあると、先ほどPTA会長さんがおっしゃったようにお父さんと子どもが児童館へ日曜日に参加したり出来るのかなと思いました。20年前のことで、車もたくさん置いて遊ぶものがあって、遊び方を教えてくれる人もいて、男性の方は遊び方を教えてくれる人が1人いないと遊具で遊ぶだけになってしまいますよね。そういう児童館機能的なものが子育て支援センターの中にも、時間や曜日で区切ってでもいいので行っていただけたら違って来るのかなと。そこで学校の先生を退職されたような方などが無料で勉強を教えてくれるというのもそうですが、コラボりん湖西では読書感想文やポスターを描くということをやっているとして、両方とも40人いっぱいです。お金を払ってでも、親たちは宿題に困っているんです。学校に来れば先生が教えてくれると言いますが、学校には足が運べなくて知り合いの人たちなら教えてもらいたいという子どもたちもいると思います。学校ではない雰囲気や学べる場、体験できる場というものを、時間を区切ってでも作っていただけるといいかなと思います。それを27番のところに明記していただけると。

(柴田会長)

よろしいでしょうか。

それでは、議題2「第2期湖西市子ども・子育て支援事業計画素案について（第1章～第3章）基本理念について」の審議を終了いたします。

次に、議題3「第2期湖西市子ども・子育て支援事業計画素案について（第4章）施策の展開について」の議題に移りたいと思います。

では、事務局からご説明をお願いいたします。

(子育て支援課)

「第4章 施策の展開」についてご説明いたします。

第4章につきましては、人口、利用実績やアンケート調査結果などに基づき、各事業における年度別の「量の見込み」や「確保の内容」を計画するものです。

(幼児教育課説明)

38 ページをご覧ください。

1 教育・保育提供区域の設定について、本市においては市全体を1区域として設定しています。

2 教育・保育の量の見込みについて、表中に1号認定、2号認定、3号認定と区分されています。「※区分の説明」については、全体の中でどこに記載するのが適切か今後検討していきます。

1号認定は、保育の必要のないお子さんということで幼稚園及び認定こども園の教育部分が利用できる施設になります。2号認定は、3歳以上で保育の必要のあるお子さんということで保育園及び認定こども園の保育部分、また幼稚園の中でも預かりを使って利用するということになります。3号認定は、3歳未満で保育の必要のあるお子さんということで保育園及び認定こども園の保育部分を利用します。

保育の量の見込みにつきましては、年々減少傾向にあります。子どもの数が減っていく傾向にあるので、その見込みを反映しています。

(2) 教育・保育の提供体制の確保内容及び実施時期について、まず、3号認定(0～2歳)の保育利用率をご覧ください。幼児教育の無償化の影響もありまして、働きたいお母さんが多くなる現状があります。その点から、年1%ずつ増加していくという見込みを立てています。

これを基に、上段の表を作成しています。量の見込みについては、1号認定では幼稚園及び認定こども園の教育部に入りたいお子さんの数、2号・3号認定では保育園及び認定こども園の保育部に入りたいお子さんの数になります。確保の内容については市で備えている各施設の定員数の総計ということになります。表はご覧のとおり、1号認定子どもは減少しており、2号・3号認定子どもでは保育を利用したいということで増加をしております。量の見込みから比較をしますと、1号認定子どもでは500～600人、2号認定子どもでは約100人の余裕がありますが、3号認定子どもではほぼ充足しており、全体としては余剰が出る見込みを立てています。

(子育て支援課)

①放課後児童クラブにつきましては、女性の就業率の上昇などによる利用希望率は今後も上昇するものと思われませんが、児童数自体は引き続き減少傾向が続くものと思われま。従いまして、量の見込みにつきましては、若干減少するものを見込んでおり

ます。一方、湖西市では「職住近接」をテーマに移住・定住施策に取り組んでおり、浜名湖西岸土地区画整理事業などの雇用創出による社会増や、本年10月からの幼児教育の無償化の影響を考慮しますと、確保の内容につきましては、児童数は減るものの、令和4年度に向けて増加となるよう計画したいと考えております。引き続き利用状況には特に注視し、待機児童が発生しないよう努めるとともに、状況によっては大規模クラブの分割といった、より良い保育環境の確保も視野に入れて事業を進めるよう計画するものです。

(幼児教育課)

②時間外保育(延長保育)事業、③一時預かり事業(在園児対象型)、④一時預かり事業(在園児除く)については、教育・保育の量の見込みの減少に伴い減少すると予測しています。

⑤病児保育事業については、現在、市内での実施はない状況にあります。施設の整備や看護師の確保等を考えますと大変困難であることから、今後も実施する予定はないということで計画をしています。

(子育て支援課)

⑥ファミサポ事業(就学児)につきましては、引き続き事業の広報や周知を充実させ、「援助を受けたい人」と「援助を行いたい人」の確保に努めるよう計画するものです。

⑦ショートステイ事業につきましては、提供体制の確保が見込めないため、実施は行わないような計画としています。

⑧地域子育て支援拠点事業につきましては、子育て支援センター「のびりん」を中心に、保護者のニーズにあった事業内容を常に検討し、引き続き親子の交流や相談の場としての役割を果たすよう計画するものです。

⑨利用者支援事業につきましても、子育て支援センター「のびりん」におきまして、引き続き実施していくよう計画するものです。

⑩乳児家庭全戸訪問事業につきましては、母子手帳交付説明時や広報・ウェブサイトを通じた事業の案内を行うことで、全戸に訪問ができるように努めていきます。

44ページをご覧ください。

⑪養育支援訪問事業につきましては、現在必要量の把握に努めているところです。今後相談や支援の訪問を行う体制を整え、事業を実施できるよう計画するものです。

⑫妊婦健診につきましては、引き続き受診について啓発を行い、受診率の向上に努めるよう計画するものです。

(柴田会長)

ありがとうございました。それでは第4章について質疑をお願いします。

(西山委員)

⑤病児保育事業ですが、令和2年の859人という量の見込みは、必要とされる人数ということでしょうか。

(幼児教育課)

病児保育の量の見込みについては、もし施設があれば使いたいということです。

(西山委員)

今の結論で言うと、必要だけど計画はしないということですか。

(幼児教育課)

859人いるのですが、以前お配りしたアンケート調査報告書にも載せていますが、休む場合はお母さんが休む場合が多いという結果についてこちらにまとめられています。お父さんも休めるような職場環境があれば、保護者の中でなんとか対応できる可能性もあるのかなということで、病児保育というのはあればいいというベターではありますが、作ることがベストではないかと。お子さんが病気で苦しんでいる時に施設まで運ぶということも大変なことですし、お子さんにとってもお父さんやお母さんに看てもらうのが一番いいのかなということもあります。お父さんも家族が病気の時には休めるような環境づくりが大切ですし、現状だと民間の保育園で病児保育をやるとなるとかなりハードルが高く、施設をそのための専用として作らなくてはならないですし、看護師さんや保育士さんを各1人置かなければいけないという問題もあってなかなか取り組めない状況です。ただ、幼児教育課として、もし病児保育をやるというところがあれば、補助金を設定することは考えておりますが、現時点ではなかなか厳しいです。保育の現場からもそういう時に病児保育で預かるということは、親子の関係性を希薄化に繋げてしまう恐れがあるということで、今回800という数字は出ておりますが、確保としては…

(西山委員)

…今のところは計画がないと。

(幼児教育課)

そうですね。ただ、もしやるということであれば、幼児教育課では相談に応じて補助金を考えていこうと思っております。

(西山委員)

企業に対して、お母さんやお父さんが休み取ることを宣伝するということはしないのですか。

(幼児教育課)

今後、産業振興課と連携を取りながら、そういったこともPRしていくことが必要だということで検討しております。

(彦坂委員)

現実的に大企業にお勤めのお父さんお母さんなら多少融通がきくかもしれませんが、お子さんが入院をしてまだ保育園に行けず2週間休んで欲しいと言われ、ご夫婦で1週間ずつ有給が取れるかと言えば取れない。取らせて欲しいと言ったら辞めろと言われたという方が近所にいらっしゃいました。職場でそういう環境が整うまでは行政の方で何とかならないのものかと思いました。

こんなにニーズがあってお子さんを家庭で育てるのはもちろんそうなのですが、それがどうしても出来ない場合がありますよね。

(幼児教育課)

病児と言っても2種類ありまして、病気中のお子さんを預かるものと、病気後の回復期にあるお子さんを預かる病後児保育という2種類です。病児保育については、県内でもやっているところが少なく、病後児保育についてはやっているところが多数あります。「2週間家で安静に」ということは、それ相応の安静にする必要性があるということだと思いますが。

(彦坂委員)

医者からは登園してもいいと言われているが、保育園からは2週間はダメと言われたと。

(幼児教育課)

登園許可証明書のようなものがあれば、園は登園を拒否できないので。その保育園を教えていただければ、後で指導しますが。

(彦坂委員)

浜松市なのですが。

(幼児教育課)

湖西市内にはそういう園はないと思います。

(神谷委員)

この子ども子育ては、障がい児の子どもについて触れている項目がありませんが、未就園児の障がい児がどこに通えるかということや、児童デイ、放課後児童支援健全と並列してそういったことを掲載する、または受け入れがどういう風に来れるのかと

いうことを数字で出すといいかと思うのですが、いかがでしょうか。

(幼児教育課)

今回、子ども・子育て支援法という法律に基づいて規定するものでありまして、こちらでは障がい児のお子さんについて見込み数などを提示していない形になっています。あくまでも保育を利用したいお子さん、保育を必要とするお子さんについて計画している内容になりますので、障がいのあるお子さんということになると範囲がオーバーしてしまって、そちらまで見込むとなりますとこの計画自体、かなり時間がかかることになってしまいます。障がいのあるお子さんに対する計画は別途ございます

今回この子ども・子育て支援計画としましては、必要な項目について計画を立てるということにとどめております。

(神谷委員)

障がい児の数がどれだけかというのは書けないと思いますが、受け入れ施設がいくつあるのかというのは、地域の人たちはなかなか分からないと思います。そういったものを明確化していただけるといいかなということと、これが元気な人だけのものであっていいのかなと。障がい児を入れるか入れないか賛否両論あると思いますが、湖西市で育つ子どもはみんな一緒だという風に、しらゆり幼稚園で私の子どもは4人教わりましたが、毎年障がいのある子どもたちが一緒に保育を学んできました。しらゆり幼稚園はウェルカムで受け入れてくださるということで知られていると、親たちは一緒に育っていけるのだと安心します。障がいがあってもなくても地域で一緒に育てることが出来ればいいなと思いました。

(白井委員)

そういう施設があれば併用してやっていけるといいなと思いますが、手のかかる子どもたちは1号車でやって来るので2時半で終わって、それ以後は1か所しかなく満杯になって断わられているような状況です。市独自で、療育施設のような大げさでなくてもいいので、そういうところがあればいいなと思います。この中では謳わないだろうと思って言葉には出しませんでした。湖西市独自のそういうところがあればいいなと思います。うちは病児も病後児もやっていませんで、お母さんに面倒を見てくださということで登園を断わってしまいますが、企業側でも子どもが熱を出したらお休みがうまく取れるようにしていただくと有難いと思います。参観会なども親御さんが来て始めて成り立つものですが、仕事で行けないという方たちが結構いますのでその時間帯だけでも来られるようなシステムを作っていただくと有難いです。

(柴田会長)

ありがとうございました。

先ほどの育休の話に引っかけますが、企業の育休、産休、時短、病気の子どもの面

倒を見る看護休暇のような取り方も含めて、企業側もそういう情報発信をしていかないと人材が集まりにくいという時代になってきているので、その押し進めをして、少しずつ広まりつつあるのかなど。企業側もより積極的に病気の子の対応等していくことにだんだんなっていくかと思います。

(高橋委員)

働き方改革というのをお耳にしたことがあるかと思いますが、ここ数年でも有給休暇をどんどん取りなさいということで会社を挙げてやっております、以前に比べて自由にお休みが取れるようになってきたかと思います。企業や業種など、そもそも土・日曜日が仕事の会社など、いろいろと重なり合っていてこのような状態になっていると思います。働き方改革については日本全体が発信することですので…

たまには休んできてくださいと園でも一押ししていただき、上司にも言ってみて、そうしたらその気になって休みを取るということに繋がればいいかなと思います。

(柴田会長)

ありがとうございます。他に何かございますか。よろしいですか。

それでは、議題3「第2期湖西市子ども・子育て支援事業計画素案について（第4章）施策の展開について」の審議を終了します。

市におかれましては、本日の会議で出された意見を反映させていただき、策定を進めていただくようお願いいたします。

続いて、議題4「その他」について事務局から何かございましたらどうぞ。

(事務局)

事務局から1点ご案内します。

次回子ども・子育て会議の開催についてです。前回の会議でもご案内しました本年度子ども・子育て会議は、年内に3回開催する予定です。今回は、9月末から10月初旬ごろの実施を計画しておりますが、詳しい日程については決まり次第またご連絡しますので、よろしく申し上げます。

(柴田会長)

これですべての議題について、審議を終了しました。

会議の円滑な進行にご協力をいただきましてありがとうございました。

以上を持ちまして、令和元年度第1回湖西市子ども・子育て会議を閉会します。